

いまこそ日本の底力を!

東日本大震災の被災地の皆様に心より
お見舞い申し上げます

戦後最大の自然災害に見舞われた被災地が立ち上がり始めた。
被災者向け仮設住宅の建設が始まり、操業停止に追い込まれた工場の再開も相次ぐ。企業による支援の輪も広がっている。

大谷 由里子

有限会社志縁塾 代表取締役プロデューサー
NPO 笑いと幸せ研究所 理事



行動のきっかけづくりを

このたびの東日本大震災については被災者の皆様並びに関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

実は私も仙台で研修講師として話している最中に震災にいました。大阪出身である私は、まさに阪神・淡路大震災の時の話を、その数分前に話しておりました。

「昨日は、今日を保障するものではない。今日は、明日を保障するものでもない。だからこそ、何があってもココロの元気を失わずに行動することが大切」という話をしていました。かく言う私も地震の時は「絶対にここで埋もれて死ぬ」と覚悟していました。

何とか命が助かり、以後の研修の再開が無理と判断し、すぐにタクシーを拾って福島まで移動しました。福島のホテルのロビーで一晩過ごさせてもらった時に、初めて震災の規模の大きさを知りました。翌日、またタクシーを拾って東京経由で、高知に講演に行きました。奇跡の連続でした。

だからこそ伝えたい。今、震災を免れた私達は、被災地の皆さんに何が

できるのかを考えて行動するのみです。

義援金を集めることはできます。そして、節電もできます。連鎖倒産を起さないようにお金を使うこともできます。何よりも、稼げるなら稼いで税金をしっかりと払って、国力を維持させることも大切です。

私は仕事で研修の講師をしています。また、笑いと幸せ研究所というNPOの理事もしています。会社も個人も笑顔にしたい。笑いでひとりでも多くの人が幸せになるように願ってやみません。

「笑われる」と「笑わせる」は違います。「笑われる」は恥ずかしいかもしれませんが、「笑わせる」は、相手を笑顔にさせることです。人を笑顔にさせたい。笑顔は心を元気にします。笑顔のあるところに夢と希望が生まれます。被災地でつらい思いをしている人達が一日でも早く笑顔を取り戻せるように私たちも共に頑張るのみです。行動の「きっかけ」をお互い作りましょう。